

令和6年度 学校関係者評価に関わる改善結果

| | 指摘事項 | 改善策 | 部会 | 担当 | 結果 |
|----|--|---|--------------|-----|--|
| 1 | 学習指導の領域の評価はおおむね良好であるが、保護者回答にやや無回答傾向がみられることから、学習・授業の進め方については、参観・保護会等での共通認識づくりに留意したい。 | 学習指導に関しては、保護者会や、個人面談、学校だより、ホームページ、校内研究発表会等において、学習・授業の進め方について保護者と共通認識をもてることを意識して行う。 | 研究推進部 教務部 | 教科外 | 2学期は通知表の総合所見をなくすと共に年度2回目の個人面談を行い、児童の学習に関しても情報共有を行うと共に今後の指導について話し合いを行った。校内研究においては発表会を行い、学習や授業に進め方について伝える機会を設けた。 |
| 2 | 生活指導の領域については、概ね良い傾向にある。特定項目でやや無回答傾向が目立つのは回答が難しいやや抽象的な設問であること、学校や保護者間のコミュニケーションや広報でのフォローが必要と考えられる。 | 行事、保護者会、個人面談、学校公開の機会を増やし、生活指導面で課題が見られる場合の保護者連絡を積極的に行い、学校や保護者間でコミュニケーションをとれる機会を増やしていく。 | 生活指導部 | 教科外 | 今年度、コロナ時に行われていた学校公開や行事等の参観時間規制・人数制限等の対応をすべて解除した。そのため、保護者の方や地域の方に児童の活動の様子を見ていただく機会をより多く設けることができた。また、個人面談を2回に増やしたことで、学校から保護者の方へ児童の様子を個別に伝える機会を更に持つことができた。各教員が日頃の学校生活での児童の様子について速やかな対応を行ったことで、児童の心配事や友達とのやり取りで生じた問題についても早期発見につなげることができた。また、保護者の方に対しても担任からの速やかな連絡を行うよう学校全体で共有・対応の意識を心がけた。安心して子供たちが学校生活を過ごせるよう、今後も学校として保護者・地域の方々とコミュニケーションの機会を重視していく。 |
| 3 | 学校行事の領域については、きわめて良好である。 | コロナ禍での行事の人数制限が解け、保護者・地域との関係が良好である。より充実した行事となるよう、行事内容・活動の改善を進めていく。 | 行事部 | 教科外 | 行事での子どもたちの活動の充実、また持続可能な行事の実施を目指し、教職員が協力をして行事内容の検討や充実を図り実施を行うことで、行事内容の改善を図ることができた。保護者アンケートを元にさらに行事内容をより良く改善していく。 |
| 4 | キャリア教育の領域は、ほかの領域と比べると不調であった。無回答が多いことからまだ十分に定着していないことをうかがわせる。 | キャリアパスポートの活用を積極的に進めるとともに、外部と連携した学習活動や特別活動等の学習内容とキャリア教育とのつながりについて意識的に発信していく。 | 教務部 特別活動部 | 教科外 | たてわり班活動・船っ子まつりなどで振り返りを行い、その後の活動に生かす等、それぞれの活動で行っている。今後、キャリア教育が伝わるよう、HPに載せる。また、振り返りカードにキャリアパスポートの型を活用できるようにすることも検討していく。 |
| 5 | 教職員の領域は、項目としてはポジティブ・ネガティブな評価両方が混在しており、やや厳しめの評価となった。教職員の執務状況は改善されておらず、体調を崩す先生が多いことが指摘されている。今後も継続して改善が求められる。 | 通知表の記載内容を変更したり、前年度から使用している新しい校務システムや教員用タブレット端末の有効活用を進め執務に関する作業や教員間の連絡時間の軽減を図る。 | 教務部 | 教科外 | 通知表の記載内容を変更することで執務の改善を図ることができた。今後は、組織の見直しを図ることで、さらなる改善を図っていきたい。 |
| 6 | 情報提供の領域では、ポジティブ。ネガティブ両方がみられ、特に学び舎関連の情報提供については、引き続き検討が必要と考えられる。 | 学校行事や学校公開、保護者会、ホームページへの掲載など情報提供の機会を継続するとともに学び舎関連の情報提供も意識的に行う。 | 教務部 | 教務 | 学校での出来事や学校の方針など学校だよりを中心としてお伝えしてきた。また、保護者会では、全体会を設け、学校の方針をしっかりと情報提供できるようにしてきた。 |
| 7 | 学校運営の領域は、概ね良好である。 | 学校の重点目標や学校だよりのホームページの掲載を継続するとともに、学校協議会など地域と方に学校の方針や様子を伝えたり、意見をうかがえたりする機会を増やしていく。 | 教務部 | 教務 | 学校行事等行った際は、必ず感想をいただき、意見を伺うようにすることで、地域や家庭の考えを聞くことができた。そこで出てきた内容について改善できることは実践してそのことを学校だよりなどで伝えていくようにしていきたい。 |
| 8 | 家庭学校連携の領域はおおむね良好である。 | 行事、保護者会、個人面談、学校公開の機会を増やし、課題が見られる場合の保護者連絡を積極的に行う等、学校や保護者間のコミュニケーションの機会を増やしていく。 | 教務部 | 教務 | 今年度は、個人面談を4月末と12月に行った。12月の個人面談では、学校での様子やこれからの課題などを共有することができた。今後も学校と家庭のコミュニケーションの機会を定期的に設けていきたい。 |
| 9 | 地域連携の領域の評価はますますであるが、無回答傾向が多く注意を要する。 | お祭りや安全ボランティア、学校協議会など、授業における外部講師など、地域との連携できる機会を増やし、学校と地域が連携する機会を増やす。 | 教務部 | 教務 | 今年度も、安全ボランティアや学校協議会など地域と連携できる機会を設けた。さらに外部講師としては、世田谷パブリックシアターやせたぼっとなの方に来ていただき、授業を行っていただいた。また、総合的な学習の時間では、保育体験を行った学級もある。地域との連携を通して、充実した学習を行うことができた。今後も、授業の内容に合わせ、地域と連携していきたい。 |
| 10 | 安全性の領域についての評価は良好である。 | 校内でのルールや避難訓練、登下校での、児童の状況を把握し、振り返り、指導やルールの改定など実施と現状に対する振り返り、改善を継続して行っていく。 | 生活指導部 | 教科外 | 学校のきまり等、次年度の4月の段階で教員間での共有内容をより明確かつ具体的なものにしていくため、今年度は、改善が必要な事案について期中を問わず検討・変更実施を行ってきた。また遅刻する児童が多く見られるため、安全面からも登校時間の周知や登校状況の確認・指導を行っていく必要がある。 |